

意見交換会実施報告書

令和元年11月6日

赤穂市議会議長 様

委員会委員長 土遠 孝昌

委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和2年10月30日（金）19時30分 ～21時00分
開催場所	赤穂市役所2階204・205会議室
意見交換会テーマ	赤穂市における医療体制について
出席委員	代表者：土遠孝昌 小林篤二 司会者：榊 悠太 瓢 敏雄 記録者：奥藤隆裕 家入時治
相手方団体名 及び参加者数	一般社団法人赤穂市医師会 5名
主な意見等	<p>1、医師会の組織について</p> <p>赤穂医師会は赤穂市の医師（100名近い）がメンバーである。活動としては、学校医活動、予防接種、産業医活動等。医師会の役割は、情報を早く正確に流すこと。赤穂市では全ての診療所の医師が医師会に加入しているが、全国的にみれば医師会に入らない医師も増えてきている。</p> <p>2、新型コロナウイルス感染症について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、経営は概して悪くなっている。但し、その程度については経営形態、診療分野によって違う。</p> <p>感染症対策にかかるコストも経営を圧迫している。</p> <p>医療物資は春頃は、不足気味であったが現在は足りて来ている。PCRの検査体制も徐々に整備されてきている。</p> <p>しかし、再び流行した場合の対処については国の方針として理解できない部分も多い。</p> <p>市に対する要望として、発熱した人を送り迎えする専用の発熱タクシーのようなものを作って欲しい。正しい恐れ方、風評被害の防止について市民を啓蒙してほしい。</p>

	<p>3、災害時の医師会としての対応について</p> <p>地震、津波を想定した災害訓練を行っている。しかし、まだまだ不完全と思っている。実際災害が起こった場合は、災害拠点病院である市民病院の手助けを行うことになると思う。</p> <p>4、休日医療の場所の固定について</p> <p>姫路市のように医師会館があればそこで対応できる。しかし、赤穂市には医師会館がない。市民病院、中央病院で行うことも検討したことがあるが、電子カルテの問題、使用する機器の問題などでうまくいかなかった。</p> <p>赤穂市は当番医制度が市民に浸透していないように思う。現状では救急で市民病院、中央病院に行く患者も多いと思われる。</p> <p>5、救急外来について</p> <p>救急外来については、中央、市民病院に負担がかかっている。救急外来は時間外勤務になるので、通常は若い研修医が対応する。しかし、両病院とも高齢の医師、或いはフリーランスの医師にお願いしなければならない状況である。</p> <p>赤穂市の場合、開業医が夜7～8時くらいまで対応してもらっているのを助かっている。</p> <p>市民病院と中央病院の協力で、救急搬送は93%が赤穂市内で完結している。これは近隣市町と比べると優秀な数字である。</p> <p>6、地域包括支援センターについて</p> <p>地域包括支援センターが出来てから様々な支援が得られるようになり、助かっている。今後は積極的にPRしてもらいたい。ケアマネージャーが病院と患者のやり取りの補助をしてくれるので非常にありがたい。</p> <p>7、その他</p> <p>赤穂市の将来の医療について</p> <p>今後人口減少が進んでいくなか、市民病院と中央病院の2つの病院が現状のまま存在する事は難しいのではないかと。</p> <p>また、2年後には姫路に巨大な病院が開設される。そうなれば赤穂市の医療も影響を受けないわけがない。赤穂市では軽微な手術もできない状況になってしまう可能性もある。</p>
委員会のコメント	<p>今回の民生生活委員会の意見交換会は、コロナウイルス感染症の沈静が見えぬ中、中止すべしとの声もあった。しかし、逆にそれゆえに先生方の生の声を伺いたいとの意見もあり、感染症対策を行った状態で実施された。意見交換の内容は、コロナ対策だけにとどまらず、赤穂市の医療の将来にまで多岐にわたり、我々にと</p>

	って有意義な意見交換会であったと思う。
--	---------------------